へき地の中でより良い教育をするために

3年1組6番　大神 光希

１．はじめに

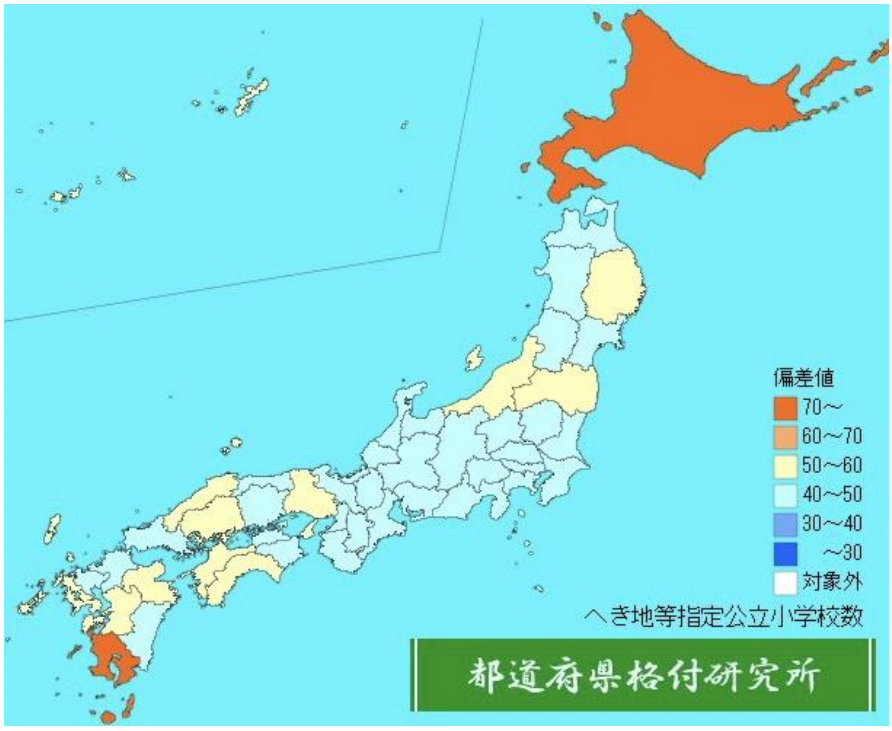
　現代の日本は少子高齢化が進み、子供の数が年々減少している中にある。
それに加え、若者が都市部に移ったことにより、都市部から離れたへき地は徐々に小規模化していき、さらには維持困難にまでなっている地域も見られる。
このような状態がこれからも続くと、へき地にいる子供の地域コミュニティが失われ、学校での教育にもさらに支障が出てくると考えられる。
そこで私は、この論文を作成するにあたってへき地教育にテーマを置いた。
これまで私がへき地教育について探究活動を行ってきたのは、過疎化や少子高齢化でへき地教育が増えている中でも、これからの子供たちにとって社会で必要な知識や経験が得られる教育がもっと増えてほしいと思ったからである。
また、自分の住んでいる奈良県にもへき地があるし、生徒目線の学校問題なら学生の自分にも何かできることがあると感じたからだ。

２．序論

　そもそもへき地教育とは、山間や離島などの都市から離れた場所、つまりへき地にある小・中学校で児童が授業を受けるという教育方法のことで、この教育をするにあたってメリットもデメリットもある。また児童・生徒が数名から数十名と少なく、へき地教育が年々増えてきていることから現代では大きな教育問題になっている。へき地教育の中には、学校自体の数を減らしたり、複数の学年の児童が1つの学年で学ぶ、例えば1年生と2年生が一緒に授業を受けるような「複式学級」や、複数の学校を合併させることもある。
現状、都市部や偏った場所で暮らす人が多いことから、孤立している僻地では一定の生徒数を持った学校を維持することが難しい。
私は、はじめにもあるようにへき地教育のある学校で最も良い教育をするためにはどのようにすればよいか、へき地教育について具体的に調べ解決しようと考えた。

３．本論

　まず、なぜへき地教育が起きるのか、文献や調査を元に考えてみた。
自分の考えとしては、人口減少に伴った少子高齢化は勿論、過疎化したへき地に人が住まなくなることが大きな原因だと感じた。元々へき地に住んでいた人達も、その地域に何らかの利益や魅力を感じなくなったりして東京などの都会に住むようになったと考えられる。
ではなぜそのような地域に魅力が無いのか、具体的に調べてみた。
図1にある都道府県格付研究所の文献によると、47都道府県を対象とするへき地等指定公立小学校の数が1番多いのが北海道で467校、2番目に多いのが鹿児島県で250校、3番目に多いのが長崎県の112校である。反対にへき地等指定公立小学校の数が少ないのは神奈川県で1校、 同じく大阪府で1校、 茨城県で2校である。



（図1）

へき地教育がある場所に共通した多くの特徴としては、住民が少ない、環境設備やデジタル化が発展していない、児童が少なく高齢者がほとんどの人口割合を占める、子供がいる家族が少ない、交通が不便、商業施設やオフィスが少ないなどが上げられる。

次に、へき地教育のメリット・デメリットを文献や論文を参考にして、生徒からの視点と先生や学校からの視点に分けて考えた。

生徒側のメリットとしては、へき地ならではの自然体験、伝統文化活動や産業教育などの教育活動が豊富である。また、少数の生徒数なので個人に応じた細かい指導を受けられる。そして複式学級等によって学年や学校を超えた学び合いや先輩後輩の上下関係を学べたり、友達と深く関わることができることである。デメリットは、学校の数が少ないので移動に時間と交通費用がかかったり、生徒数が少ないので校外研修が少ないことである。また、集団活動が難しいため多様な考えや思考、言語能力の取得が困難である。そして固定化した人間関係によってコミュニケーションが得られないこともある。

先生や学校側のメリットは、生徒数が少ないので授業や学級事務の負担が少なく時間にゆとりがあることである。また、一人一人の生徒とちゃんとコミュニケーションをとれるので、より良い関わりを生徒と持つことができる。デメリットは、1人が複数の学年を持ったり授業をするので負担になりやすいことである。また、先生同士の校内研修の機会がなかったり、活気のある学校づくりができないこともある。これらのメリット・デメリットを踏まえてへき地教育におけるより良い教育方法を考えていくことが必要である。

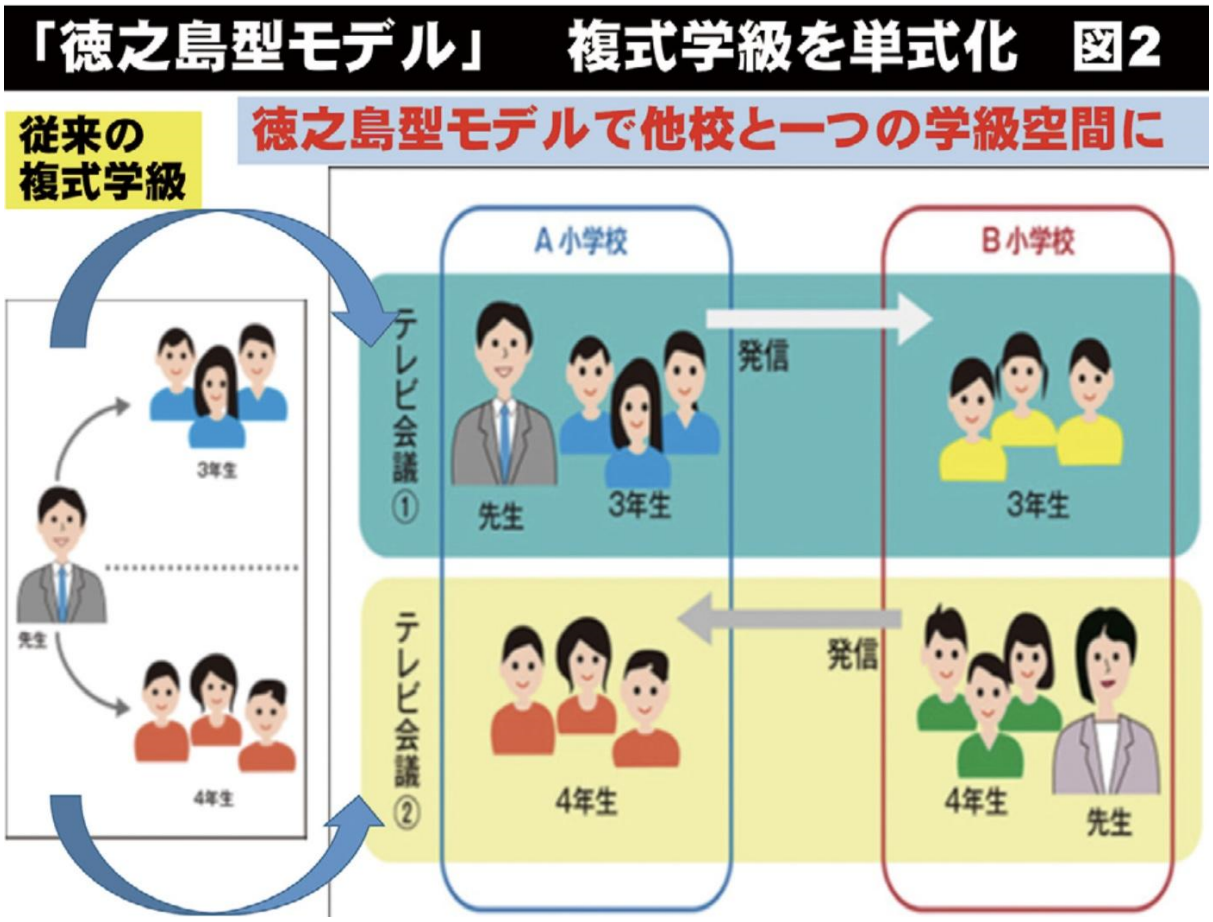
次に、実際に日本のへき地ではどのような取り組みが行われているのか調査した。

北海道教育大学では、平成16年から「へき地校体験実習」が行われている。これはへき地にある小、中学校で大学生が教育実習をすることで、令和3年に行われた実習報告会の内容を取り上げると、北海道の実習生が8校の学校で「へき地校体験実習」に参加した。彼らはそれぞれの学校で、教壇実習だけでなく農園活動や地域での暮らしも経験した。

この「へき地校体験実習」の効果として、実習生は「小規模校ならではの教室配置、子供たちとの過ごし方、授業の進め方について実際に見て学ぶことができた」や「へき地の良さと

して、自主的に下の学年のお世話をしようという気持ちが芽生える」、「高学年ほど、児童のリーダー中心に授業を進行する時間が増える」、「2つの学年に違う授業を1人の教師が教えることの難しさ」などを報告していて、小規模校でしか得られない学びを経験できた。
鹿児島県徳之島町では平成26年に「ICTの利活用による少人数・複式学級の授業改善」の取り組みを始めた。図2にあるように、これは「徳之島型モデル」といい、テレビ会議システムを使って、場所が違う 2 つの小規模校で双方向に授業を実施し、1つの教室の中に2つの遠隔合同授業を構成し、両校の担任がそれぞれ1学年ずつを主として担当することである。距離を超えて同学年同士を「まるで1つの学級空間」として、全国的にも初めての取り組みをした。
この「徳之島型モデル」の効果として、限られた教員数では専門性を生かした授業が困難であったが、得意な分野を担当し合うことで授業の質の向上を図ることができた。また、授業だけでなく校外学習や水泳授業などを合同授業として位置づけ、相互の友人関係を構築することができるようになった。さらに全国学力・学習状況調査と遠隔授業を通しての自己評価を比較したデータの結果がある。データから抜粋すると、「友達と話し合う時、友達の考えを受けとめて自分の考えを持つことができている」という質問の答えに全国調査の結果では28.5%答えているのに対し、遠隔授業を受けた生徒は34.6%答えた。他にも「授業で学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかり伝えていたと思う」に全国調査の結果では32.3%に対し遠隔授業を受けた生徒は33.1%答えた。このように生徒の考え方や人との関わり方も遠隔授業では良い影響を与えたことが分かる。これまで培ってきた複式指導の技術にICT機器の活用を重ねることで、遠隔合同授業活用のメリットを生かした学習活動が展開できた。

(図2)



４．結論

今回この論文を制作するにあたって、へき地教育とは都市部から離れた、住民が少ない地域にある学校で児童が授業を受ける教育方法のことであり、この教育をより良くするために様々な方法でそれぞれの学校が工夫していることが分かった。

この論文の問いである「へき地教育のある学校で最も良い教育をするためにはどうすればよいか」という答えは、へき地教育にはデメリットだけではなくメリットもあるので、生徒や先生にとってどんな授業が適切なのかを考えて、具体的な改善方法を見つけ、積極的に取り組むことが大切だと考えた。

しかし今後の課題として、へき地ができる原因は少子高齢化があるのはもちろんだが、交通が不便であったり若者が興味を持つ施設やイベントが少ないなどの魅力が無いこともあるので、人を増やすような取り組みをすることが必要である。

５．おわりに

私はこの探求をするまでへき地教育を知らなかったし、各地域の特色や教育問題について関心が無かった。しかしこの探求を通じて、それぞれの地域や学校が生徒や先生のために様々な取り組みをしていて、1つの学校だけではなく複数の学校が共同して授業をしている地域もありとても感心した。また学校での生徒の生活や生徒同士のコミュニケーションなどの理解が深まり、教育問題についての知識も広がった。

この探求で得た学びを生かして、今後より広い視点で物事を捉え、幅広い知識や価値観を身につけて積極的に物事を探求していきたい。

６．参考文献・出典

・文部科学省　平成27年1月27日「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～」　公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引の策定について（通知）
(https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2015/07/24/1354768_1.pdf)

・都道府県格付研究所　2021年「へき地等指定公立小学校数ランキング」（http://grading.jpn.org)

・松田孝一「へき地教育の現状と課題～北海道宗谷地方のへき地・複式教育を事例として～」(https://www.meiji.ac.jp/shikaku/kyoikukai/6t5h7p00000if2mm-att/011bunkakai.pdf)

・北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター　令和3年12月6日発行「令和3年度札幌校へき校体験実習報告会を開催しました」 へきけんニュース　第101号
(https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00005800/00005859/へきけんニュース101号.pdf)

・文部科学省 鹿児島県徳之島町教育委員会月報　2021年10月号「離島へき地から最先端の学びの町への挑戦～遠隔教育「徳之島型モデル」の概要と成果～」　Series地方発！我が教育委員会の取組
(https://www.mext.go.jp/content/20211025-mxt_syoto01-000018591_05.pdf)